

2010年度大阪女学院中学校・高等学校事業報告

□ は2010年度の年間計画

I. 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

1. キリスト教に基づく人間理解の深化

大阪女学院中学校・高等学校は女性が一人の人として、何らかの方法で働く義務を悟り、正直に仕事をするを誇りとし、日常生活の雑事を越えて、物事を見抜く力のある人間を育むことを目指す。宗教教育については、長年の実績の積み重ねを踏まえた上で、キリスト教に基づく人間理解を深め一人ひとりがかけがえのない存在であることの自覚を促し、生徒自らの生き方と他者とのかかわり方を学ばせる。

また、入学後の保護者に対しても、学校への理解を深めてもらえるよう努める。

1) 年間聖句 「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」

(マタイによる福音書4章4節)

- 2) 礼拝 【中学校】 ・火、木、土は中学1年、中学2年、中学3年合同で合同でチャペル礼拝
・月、水、金はクラス礼拝
- 【高等学校】 ・月、水、金 高校1年、高校2年、高校3年合同でチャペル礼拝
・火、木、土はクラス礼拝
・英語科英語礼拝 (年8回) OCCホール
・英語礼拝 (年4回) チャペル
・特別礼拝 音楽礼拝(年3回)、イースター礼拝、母の日礼拝、花の日礼拝、収穫感謝礼拝、クリスマス礼拝、伝道週間特別礼拝

3) 修養会

- J1 7月7日(水)～9日(金) 1泊2日 2班 会場 京都烟河
主題 「一歩前へ」
講師 佐々木拓也先生 (エレベートチャーチ牧師)
- J2 7月7日(水)～9日(金) 1泊2日 2班 会場 舞子ビラ神戸
主題 「聴くということ、聴かれているということ」
講師 谷本仰先生 (日本バプテスト連盟南小倉教会牧師)
- J3 9月3日(金) 会場 学内OCCホール
主題 「心で聴く～大切なあなた、大切な私～」
講師 牧ローニ先生 (聖公会 聖ヨハネ教会員)
- S1 7月7日(水)～9日(金) 1泊2日 2班 会場 神戸市立フルーツフラワーパーク
主題 「神様と私/イエス・キリストと私」
講師 高原剛一郎先生 (東住吉キリスト教会伝道者)
- S2 2月15日(火) 会場 学内ホールチャペル
主題 「自分のことばかりでなく人のことも考えよう～やさしい心を持っていますか～」
講師 福井達雨先生・止揚シスターズ (止揚学園)
- S3 7月7日(水)～9日(金) 1泊2日 2班 会場 ユニピアささやま
主題 「大丈夫!神さまが一緒!」
講師 波多康先生(聖書キリスト教会協力牧師)
KIKIさん (ゴスペルシンガー)

- 4) 伝道週間 9月29日(月)～10月5日(日)
 主題講演講師 スティーブン・ケイラー先生(ホープ・チャーチ牧師)
- 5) 宗教行事
 11月15日(月) J・S ベー・チェ Chol さんコンサート
 12月10日(水) J・S 小堀英郎さん・平田葉子さん ピアノと歌とお話のコンサート
- 6) 公開クリスマス 12月20日(土) 3回実施
- 7) 中学校、高等学校 宗教行事感想文集「えのき」発刊

2. 建学の精神の再認識と再構築

女子校から共学に改組する学校が多い中、本校の建学の精神を再認識し、教育理念を確認しつつ充実した教育に努める。

- ・本校の建学の精神、沿革、等をまとめた冊子『愛と奉仕』を、新入生全員に配布し、入学当初の聖書の授業を通して内容を理解させた。また、聖書の学ぶ集いをヘール会主催で行い保護者の建学の精神、教育理念の理解を深めた。
- ・キリスト教学校フェアへの参加
 7月31日(土) 於 東梅田教会
 大阪地区のキリスト教学校と協力し合いながら、準備を進め、受験予定者に対して建学の精神、教育理念を広めた。
- ・女子中フェアへの参加
 4月20日(火) 於 新阪急ホテル
 大阪地区の私立女子中学校が集まり、女子校フェアに参加し、女子校の意義を広めた

II. 教育の内容

上記の教育理念を具現化するため、生徒一人一人に与えられた賜を生かし、社会に貢献するための学力、協調性をもった行動力、自己と他者を大切にすること、人権意識、円滑な社会生活を営むための規範意識、そして世界平和を実現するための国際性を身につけることを目指し、以下の取り組みを行う。

1. 学力向上の取り組み

本校における一貫カリキュラムの成果と課題についての検討を更に進め、各教科の学力の向上と定着を図るための検討を進める。

2. 学校行事の円滑な実施と学習状況の確認

昨年度からの6日制実施による学校行事と学習活動の両立を確認し、6年間一貫教育が円滑に行われ、教育的効果が十分に発揮されるように努める。

3. 生徒の人権意識を深める取り組み

解放教育(人権教育)については、「私たちの人権感覚を問い直そう」一人ひとりを大切にしようという教育目標の下で、一人ひとりが大切にされる解放教育を目指す。また世界の人権状況と人権獲得の歴史を学び、守り、発展させていく意味を考えさせ、各学年の成長過程に応じて生徒自らの人権意識を深める取り組みをテーマを決めて行う。また、インターネットの扱いやいじめの問題に対する生徒の問題意識を更に深める。

- 1) 「私たちの人権感覚を問い直そう」一人ひとりを大切にしようという教育目標の下で、各学年別年間目標をたて、実施した。

*学年別テーマ

- 中1「調べてみよう、考えてみよう、色々な人権問題」と「子どもの権利条約」
- 中2「HARMONY～心の「音」(あなたの「音」との出会い) Listen to your sound戦争と平和
- 中3「戦争と平和・障がい者と人権・被差別部落とは」
- 高1「人権・共生の視点で世界と日本をとらえ、飢餓や貧困、社会の格差、民族問題に自分も身近なところで関わっていることを学ぶ」
- 高2「共生そして自覚」
- 高3「共生から共有へ～社会のひずみからくる痛みをともに担おう」

*中学平和を考える日

中学3年生の修学旅行平和学習感想文代表者発表と反戦平和映画「ラストゲーム最後の早慶戦」鑑賞

4. 生徒の生活全般に対する指導

生活指導については、中学・高校それぞれの発達段階を考慮しつつ、一貫した原則の下に生活全般について指導を行い、現代社会が生じさせる個々の問題に対し具体的な対応をしていく。特に、基本的な生活習慣・社会のルールを身に付けるよう指導し、時間、物の管理、服装や身だしなみ、礼儀、公共のマナーや美化等について、周りを配慮して行動できるように指導する。

- 1) 遅刻指導をはじめ、身だしなみの指導、移動教室の施錠確認や授業時間中の巡回、放課後の教室の整理整頓の見回り等、きめ細かな学年の指導により、学校生活は落ち着いている。
一部の生徒の登下校時のマナーの悪さに対して一般の方から苦情が来ることがあるが、その都度全体に注意をしている。公共のマナー、ルールを自らの意志で守り、周囲に配慮をもって生活していけるよう指導を続けたい。

5. 国際理解教育の推進

留学や留学生との交流を通じ、言語への関心を深め、言語や文化の違いを知ることで、世界に目を向け、広い視野をもって物事を考える生徒を育てる。

国際教育委員会(2010年に改称)を中心に在校生の海外への派遣や海外からの留学生の受け入れを支援し、大阪女学院の国際交流に努める。委員会のメンバーは「派遣サポート担当」「受け入れサポート」「カリフォルニア交流事業担当」「大学留学サポート担当」「海外研修担当」の5つの部署に分かれ動くが、定期的に委員会を開き、全体を把握できるように心がける。昨年に引き続き、カナダにある高校との提携を進め、1年間の交換留学を実現させるため検討を継続する。

III. 教育の実施体制

1. 生徒の安定的な人数確保のための取り組み

今後とも長期的に続く少子化への対応、大阪府の公立学校改革への対応を検討し、実施する。
また、中学入学者の人数確保を安定的に行っていくため、中学の入試結果の集計や分析を更に充実させ、次年度の入学予定者の把握に役立たせると共に、受験生の保護者の学校理解を深める。
高校入学者の増加を計るため、公立中学校の訪問等具体的な方策を継続する。

・高校について

本学は大阪府が国の公立授業料無償化に伴い行った、収入610万円までの家庭への私学授業料支援を行う「推進校」になることを受け入れた。それによって大阪府在住の生徒一人当たり授業料と補助金の差額5万3千円を支出することになったが、その結果、昨年度入学者が51名であったものが、59名に増加した(編入1名含む)。しかし募集定員80名には未だ達しておらず、受験日程の複数化など新たな募集対策の検討

を始めた。

・ 中学について

募集人数	210名		
	前期		後期
	A方式(専)	B方式(併)	併願
出願者数	359名	129名	290名
欠席者数	10名	5名	241名
受験者数	349名	124名	49名
合格者数	295名	116名	35名
手続前辞退者	100名	96名	24名
入学手続者	195名	20名	11名
手続後辞退者	14名	1名	2名
入学予定者	181名	19名	9名
帰国生入試	1名		
入学予定者	210名		

中学入試は前A出願数が昨年より約100名少なかった。昨年同様、兵庫県私学・関大グループが女学院入試と同日(16日)にも入試を行ってくるようになり、志願者が減った。また、長引く不況の影響で受験校を絞って受験する傾向がある。また、私学ブームが去って塾へ行く生徒自体が少なくなっている。前AのW出願は171(昨年188)、前BのW出願は26(昨年26)で前Aの重願率が48%(昨年41%)前Bは20%(昨年21%)で前Aの重願率は過去にない高さである。今年は大坂女学院より上位校が数の総ざらえをし、追加合格をあまりだしてない。そのため例年より辞退者は減っている。入試改革や学力向上の取り組み等教育の質を高めることで安定的な人数確保をしていく必要がある。

2. 中学・高校の組織改善の取り組み

教職員の意識の共有化を行いつつ、組織の再構築と運営方法の見直しを続ける。管理職、部長、主任等の決定の方法、職務を見直し、中高一貫教育の更なる充実をめざす組織作りを図る。

中高教員組織新委員会を発足、委員会を16回開き、その結果を職員会議に報告しながら議論を重ね、職員会議にて校長及び副校長・教頭選挙規程(案)、校務担当者選任規定(案)をまとめて理事会及び特別委員会に提出を行った。来年度より実施の方向で進めている。

3. 中学・高校としての図書館機能の充実

中学校・高等学校の教育・研究・学習を支援するために、資料・情報を収集し、整理、保管、提供を行う。

①蔵書の充実

- a. 学力低下や様々な背景をもつ生徒、また多様な要望をもつ生徒を教育・指導するために必要な資料の収集。
- b. 職員の教材研究用の資料の収集
- c. 学校行事(遠足、修学旅行、文化祭など)の事前学習や準備に必要な資料の収集。
- d. キャリア教育に関する資料の収集
- e. 生徒の学習に役立つ資料の収集
- f. 生徒の知的好奇心をかきたてる多種多様な資料の収集。

②利用教育 資料・情報を使い、自律して学校生活や社会生活をおくれるように

a. 情報の探し方、入手方法などウェブ上、印刷ベースで紹介。

③その他

a. 優れた作品や人物など本物のもつ力と出会うことは、生徒の貴重な財産になる。

学校の講演会とは別に、作家などを派遣している「朝日新聞主催の作家と語る企画」に応募する。

b. 生徒が授業以外に、部活動の資料や趣味の発表資料を作成したり、DVDを観ることが出来るように機器を充実する。

①蔵書の充実

a. 教職員の教材研究用資料の充実

国語科、美術科、英語科の教材研究資料をCD、CD-ROMをふくめて重点的に収集。

②図書館の資料を利用する授業

a. 高校1年生「現代文演習」の授業でディベートのため、また、高校2年生英語科「異文化理解」で情報収集のため図書館で授業をおこなった。

③利用教育

a. 「解放学習」のために作成したパスファインダーを利用して中学1年生が図書館で情報収集した。

b. 内部進学者オリエンテーションで、参考図書を使って調べ、発表する演習を取り入れた。

④その他

a. 他校との交流

灘高校図書委員と高校2年生図書委員が交流会をおこなった。

図書新聞を発行するなど活発な灘高校の図書委員会活動に刺激をうけた。

V. 生徒支援

1. 生徒の自己実現を促す進路指導

生徒が進路選択をするに当たり、キャリア教育を実施し、自分の将来を設計し、その実現に向けて少しでも近づけるように、指導、助言をする。

①年間指導計画に基づいて、必要な情報を生徒・保護者に提供し、生徒の進路意識、学習に対するモチベーションの向上を図る。特に、中学生は、キャリア教育として様々の職業のアウトラインを学び、そこから自らに適した分野を発見させ、具体的大学学部選びの資料とさせる。

②実力テストや、学力の推移を調査するテスト等により、生徒の学力や学習・生活実態を調査分析し、進路委員会、学力検討委員会が職員会議等に生徒の学力向上の為の方策の提言を続けていく。また2006年から行っている土曜講座等の成果を精査し、生徒がそれぞれの目標に向け努力ができる学力支援体制を充実させる。

③高大連携を促進する。

④資料の整備や留学コーナーの設置、進路相談等、進路室利用の活性化を図る。

⑤高校3年生・既卒生の進路状況を把握し、各種資料を作成する。

1) 各学年の進路指導実施状況

中学1年 生徒、保護者進路説明会(10月)

中学2年 生徒、保護者進路説明会(10月)

中学2年 生徒、保護者進路説明会(3月)

中学3年 生徒対象普通科文系・英語科説明会、普通科理系説明会(4月)

高校1年 第1回 進路説明会(進路選択と教科選択)(6月)

第2回 進路ホームルーム(大学オープンキャンパス参加準備)(6月)

- 第3回 進路ホームルーム(大学オープンキャンパス発表)(9月)
- 第4回 生徒進路説明会(進路選択と学習)(10月)
- 第5回 生徒進路説明会(高校3年の進路状況)(2月)
- 高校2年 第1回 生徒、保護者進路説明会(卒業生の進路状況と教科選択)(6月)
- 第2回 生徒進路説明会(模試データの見方と目標と教科選択)(10月)
- 第3回 生徒進路講演会(高3に向けて)(1月)
- 第4回 生徒進路説明会(高校3年の進路状況)(2月)
- 第5回 生徒進路説明会(志望理由書の書き方)(2月)
- 第6回 生徒、保護者進路講演会(希望者対象、奨学金について)
- 高校3年 第1回 進路説明会(調査書について)(4月)
- 第2回 生徒、保護者進路説明会(卒業生の進路状況と進路全般説明)(4月)
- 第3回 生徒進路説明会(センター試験、AO入試、自己推薦入試説明)(6月)
- 第4回 生徒進路説明会(指定校推薦入試、調査書請求について説明)(8月始業式後)
- 第5回 進路ホームルーム(公募制推薦・センター入試出願説明)(9月)
- 第6回 生徒、保護者進路講演会(希望者対象、入試動向について)
- 第7回 生徒進路説明会(センター試験自己採点と小論文説明)(1月)
- 高1～高3 教育実習生による大学紹介と学習のアドバイス(6月)
- その他、職業に関する書籍を各クラスに設置したり、進路に関するDVDを見せたりと職業や進路、学習に関する関心が持てるように努めた。

2) 実力テスト関係

- 中学1年 学力・推移調査(4月)(12月)(3月中学2年生用)
- 中学2年 学力推移調査(12月)(3月中学3年生用)
- 中学3年 学内実力テスト(4月)(11月)、学力推移調査(11月)
- 高校1年 スタディーサポート(4月)(9月)(3月高校2年生用)
- 実力テスト(11月)(1月)
- 小論文ガイダンス(11月) 小論文テスト(1月)
- 高校2年 スタディーサポート(4月)(3月高校3年生用)
- 実力テスト(7月)(10月)(1月)
- 小論文ガイダンス(5月)(12月)(1月) 小論文テスト(9月)(1月)
- 高校3年 実力テスト(5月)(6月)(9月)(10月2回)
- 小論文テスト(5月)

3) 普通科文系、普通科理系、英語科においてそれぞれ高大連携を促進した。

- 文系 神戸女学院大学(人間科学部)、関西学院大学(商学部)、関西大学(社会学部)、同志社女子大(学芸楽部 情報メディア学科)
- 理系 大阪大学(理学部生物学科)、大阪府立大学(生命環境科学部)、神戸薬科大学(薬学部)、理系セミナー
- 英語科 立命館大学(国際関係学部)

4) 大学・短大・専門学校・留学資料の整備、進路相談(面談・電話)等、進路室利用の活性化に努めた。

- 5) 高校3年生・既卒生の進路状況を把握し、各種資料を作成した。
 - ・進路先冊子・卒業生からの進路アドバイス冊子配布

6) 進路結果の概要は以下の通りである。

① 2011年卒業生 進路状況

(最終進路)

	進 学					就職	その他	合計
	大学	短大	専門学校	留学	予備校	就職	その他	合計
人数	228	12	1	3	30	0	0	274
%	83.2	4.4	0.4	1.1	10.9	0	0	100
%	87.6							
%	88.0							
%	89.1							
%	100							

②科別(普通科・英語科)進路状況

	大学	短大	その他	合計
普通科	148 (78.7%)	11 (5.9%)	29 (15.4%)	188
英語科	80 (93.0%)	1 (1.2%)	5 (5.8%)	86

③大阪女学院大学・短期大学 入試結果 (2011年卒の内訳)

入試方法	受験者数		合格者数	
	大学	短大	大学	短大
学内(専願)	9	8	9	8
選抜(併願)	2	1	2	1
一般	1	1	1	1
Academic Interview/ティバージョンステップアップ	0	0	0	0
合計	12	10	12	10

2. 心身の健康と安全を守るための生活指導と生徒支援

- ①自分自身の心身を健康に保つ方法を身につけるように指導する。そのために保健室・教育相談室(学校カウンセラー)、サポートルームと連携し、生徒・保護者をバックアップする。
- ②授業・学級活動・生徒会活動・クラブ活動・その他の活動が安全かつ充実したものになるように努める。
- ③学校外での生徒の事故やトラブル、迷惑行為等の窓口となり対応する。
- ④不登校、保健室登校や広汎性発達障害がい等支援を必要とする生徒への取り組みを「支援教育委員会」を創設して行う。支援教育コーディネーター、指導員をおき、サポートルームを中心に支援活動を実施する。

1) 「支援教育委員会」

- ・中高では2010年4月より、「支援教育委員会」を発足した。この委員会は、校長、教頭、教務部長、生活指導部長、保健室の養護教諭、教育相談室のカウンセラー、支援教育指導員、外部アドバイザー、当該生徒の学年主任、担任で構成し、支援を必要としている生徒について、適切な指導をするように努力してきた。この会は年5回、定期テストの期間の1日を使って、支援を必要としている生徒たちについて話し合ってきた。
- ・図書館のグループ閲覧室を借りて、「サポートルーム」を設置した。この部屋には、支援教育指導員が常駐して、支援の必要な生徒の対応をしている。平日は8:25から16:00まで、土曜日は12:00まで利用ができる。「サポートルーム」は、一時的に心を休めたり、教室に行くために学習をしたりと、気持ちの充電をする場所として、これからも生徒の学校生活を支援していきたいと考えている。

2) 生活指導講演会実施状況

4月 9日(金) 中学・高校1年生対象 鉄道警察隊による「安全教室」

- 7月14日(水) 中学1年生 生活指導講演会
「よい姿勢について」 講師 KCSセンター 岩田洋子さん
- 7月21日(水) 高校生活指導講演会
「薬物乱用について」 講師 心の健康センター 山内幸織さん
保健士 野村光生さん
- 2月18日(金) 教職員生活指導講演会
「DV (ドメスティックバイオレンス) について」
講師 aware 代表 山口のり子さん
- 3月10日(木) 中学2年生生活指導講演会
「DV (ドメスティックバイオレンス) について」
講師 有本祐雅さん
- 3月14日(月) 中学1年生対象
松原高校 「るるくめいと」によるエイズ・ピュア・エデュケーション

- 3) 迷惑行為報告の急増を受け、生徒登下校中の立ち番を長時間実施。東警察、天王寺署、府警本部に訴えた。地下鉄玉造駅での盗撮被害に対し、ポスター、迷惑行為抑制のアナウンス、巡回への動きとなり地域の方の協力も得、地下鉄改札から出口への長い通路に多くのビデオ設置実現に向かった。

X. 改革・改善

2010年度の課題として、とりわけ以下の項目について重点的に取り組む。

1. 組織の再構築と運営方法の見直しの継続

中学・高校の管理職、部長主任等の決定方法を検討し、より充実した教育が行える組織づくりを図る。

(Ⅲ. 教育の実施体制の 2. 中学・高校の組織改善の取り組みの項参照)

2. 6日制の円滑な運用と効果の確認

2009年度から1校時50分の週6日制が実施されたが、新制度の不十分な点を精査し、授業のさらなる充実、教職員の労働環境改善など、教育効果がさらに高められることを目指して検討実施する。

教員は平常の授業準備、授業はもちろん、事後指導、面談、クラブ指導と多忙をきわめ、2008年度から実施した週完全6日制により、その多忙感が更に増し、これを軽減することが、大きな課題であった。

そこで、2011年度から2週間時間割の導入を決定し、準備を行った。2週間プログラムは、教員の研修日を年間で増加させ、また生徒の学力向上のための、授業日数の増加も実現させる。時間割上、煩雑であることは否めないが、教員に生まれる余裕が、生徒との豊かな時間、教育の充実につながることを強く願っている。

3. 学校評価「自己評価」「学校関係者評価」の実施をうけて

2007年6月の学校教育法の改正を受け、2008年度には「自己評価」を行ったが、2009年度に行った

「自己評価」「学校関係者評価」の結果を分析し、明らかになった問題点についての改善を進めていく

2011年度の課題として

- ①生徒の学力を高める取り組みを更に充実させること。
- ②教師の多忙感を和らげ、余裕をもって生徒と対応できるよう検討をする。の2点が挙げられた。

4. 生徒の学力向上について

「自己評価」の一環として実施した授業評価に基づき、各教科の授業力の向上を図る。また2007年度から中学・高校で一貫して実施している学力の推移調査を継続させ、その結果に基づいた個人面接や分析説明会による効果を検証し、更なる生徒のモチベーション向上を図る。

・生徒の学力向上について

生徒の学力向上が本学の大きな課題である。学力検討委員会の中で、特に、中学生達の自学自習の力を身につけさせる必要性が話し合われ、2010年度の2学期から土曜日の終礼時間を延長し、40分間全員で自習時間をもつ取り組みを始めた。生徒達は各自取り組むべき課題を決めて学習を進めている。また、高校では自らのペースで学習をすすめるプログラムを模索した結果、コンピューターを使い、予備校等講師の授業を141講座の中から自由に好きなだけ受講できる「BB講座」を導入することとした。2010年2学期から高校2年のモニター受講を開始した。放課後や休業日など好きな日時に復習、実力錬成を図ることが出来る。2011年度当初からは高校3年、2学期から高校2年での導入が予定されており、成果が期待される。

・学力推移調査、スタディサポート分析会 面接について

4月27日(火) 高校スタディサポート分析会第(1回目)、中学学力推移分析会(1回目)

4月30日(金) 5月6日(木) 授業3限までとし、学力推移面談日とした。

10月21日(木) 高校スタディサポート分析会(2回目)

12月 8日(水) J学力推移調査分析会(2回目)

(V. 生徒支援 1. 生徒の自己実現を促す進路指導参照)

5. 新指導要領に向けて教育課程の見直しを行う

中学校2012年度、高校2013年度の新指導要完全実施に向け、それに伴う教育課程の見直しを行う。

- ・高校 2013年度完全実施の新指導要領に向けて、生徒の学力向上と中高一貫教育に見合ったカリキュラムになるように、検討していく。
- ・中学校 2012年度新指導要領完全実施に向けて、教育課程の検討を完了し、実施に向けて準備を進めている。

6. 経費の削減と効率化を図る

大阪府の低所得世帯授業料無償化を受け、諸経費を見直し、経費の削減と効率化を図る。

経費の削減と効率化を図るために、特別教室助手や保健室の非常勤の先生の時差勤務の効率化を進めた。またコンピューター室の新機種導入により入れ替えた機器を、使用可能な部署で再活用し、リサイクルを行った。

7. 教職員の危機管理意識の向上

新型インフルエンザ対策を含め、生徒が学校生活を「安全・安心」して過ごすことができるよう設備の充実と教職員の研修を行い、教職員の危機管理意識を向上させる。

生徒の通学途上での痴漢などの被害を防ぐため、生活指導を中心に、鉄道警察、交通局、地元自治会、市会議員等の協力を得て、地下鉄通路の防犯カメラの設置を実現させた。また、生活指導委員会教師が輪番で立ち番を繰り返し、防犯に努めた。

8. 教職員の人権意識の向上

教職員の人権意識を更に深め、授業やクラブ活動での指導はもとより、日常における生徒との関わりの中で、生徒の人権に配慮した指導が十分出来るよう啓発と研修を行う。

*教職員学習会

- ① 6/25 朴 君愛さん講演（ヒューライツ大阪企業業務グループ上席研究員）
「グローバル化の中の、外国人の人権を考える～大阪コリアンの経験をふまえて」
- ② 9/11 解放・生活指導・支援教育委員会合同「夏期研修報告会」
- ③ 10/18 日野 玲子さん講演（立命館大学講師）
「ジェンダーの視点で教育を考える—『かくれたカリキュラム』という考え方」
- ④ 11/4 教職員フィールドワーク「姫路の皮革工場を訪ねて」

9. 教職員と図書館の連携方法を考える。

- ①大学・短期大学の図書館開館にともない、中高図書館のあり方。
- ②本がある場所としての図書館から図書館の機能を使う図書館への転換。
- ③新しい利用者の開拓：入学試験に合格した生徒への図書館利用の検討。
- ④大学の推薦入学が決まった生徒を図書館活動への参加。

①中・高図書館の運営方法について大学と同じキャンパスにある図書館に問い合わせをした。

②図書館の早朝開館を希望するかどうか高校3年生にアンケートをした。結果、68%の生徒が現在のままでよいという結果がでた。